

【6月度例会】「技術者倫理」

日時：2015年6月4日（木） 18:00～20:00 於：近畿本部会議室

講師：上田 修史 氏（化学）

1. はじめに

今、何故工学倫理なのか？の問い合わせから始まり、最近多発する事故・企業不祥事にたいして科学技術と社会との関係、倫理観など最近の事例をあげ、技術者のあるべき姿や技術者を目指す JABEE 認定大学生への授業教育の一環として心得ることを細かくわかりやすくご講演いただいた。また共著の具体的参考書も紹介があった。

2. 技術者倫理の概要

近代技術は、危険なものを安全に利用する知恵である。それ故技術者には専門的な能力に加え、高い倫理性が要求される。他の専門職と異なるのはこの点につきる。

プロフェッショナリズムの構成要素は、知的な誠実性、思考及び行動における卓越性、協調と公開性、自立と責任、自己規制である。特に後の 2 つが重要であると考える。

科学者・技術者などの専門職は古くは紀元前ギリシャ時代の「ヒポクラテスの誓い」やアリストテレスの倫理観・哲学体系にもあるように元来、倫理レベルの高い職業とみなされ、尊敬を勝ち得た。しかし、最近では技術者倫理が問われる事例、STAP 細胞論文取り下げや耐震強度偽装事件、アスベスト被害、ミスコンダクト（研究不正）事例（日本）などが発生している。宗教での倫理規範としてキリスト教、儒教、仏教、イスラム教の黄金律を紹介。モラルと倫理、そこへ法律が関係する考え方となる。しかし法は他律的で倫理は自律的である。理工系学協会の倫理規定の紹介は、全米専門技術者協会倫理規定（NSPE）及び国内各学協会の倫理規定、倫理要綱と制定日、改定日を紹介。日本技術士会は土木学会（1938）の次に古く、1961年に制定された。日本技術士会の倫理綱領を NSPE の倫理規定と比較して説明。日本技術者教育認定機構（JABEE）の紹介があり、ワシントンアコード加盟国の認定システムと実質的に同等と認められるため、工学倫理教育が必要である。本制度の課題も紹介。科学者の倫理問題として、論文不正、研究費詐欺、経歴詐称・業績捏造、利益相反、組織内パワハラ、セクハラなど。では何故不正が？ 背景には科学技術の急速な発展や科学者の置かれた状況がある。また研究環境の変化がある。これに対して日本の取り組みには文科省 HP（2014.8.26）「新たな研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」がある。ハインリッヒの法則を工学倫理に当てはめ図式化して説明された。

3. まとめ

倫理問題解決で判断に迷うときは、上司に相談すること。自分で問題を抱え込まないこと。いつも次のことを自問しコンプライアンスに留意することが肝要である。倫理問題でころ

ばぬように、人生を台無しにしないためにも心得たい。講師共著の書籍を下記に紹介する。
中村収三、(社)近畿化学協会 工学倫理協会 共編著 『技術者による実践的工学倫理 先人の知恵と戦いから学ぶ』第3版 (化学同人、2013)